

こんごくろ



津山
だいすき!

わたしも
ひまわり

安全のために
街灯を
設置してほしい



津山市に住む長男家族の所に遊びに行き、夕食後孫と散歩をしました。道路には街灯が見当たらず、暗くて不安で置していただきたいです。(市外・女性)
津山市の道路照明には「街路灯」と「防犯灯」があり、それぞれ設置や維持・管理の方法が異なっています。
街路灯は、道路管理者が設置・維持管理するもので、国



問い合わせ先 街路灯Ⅱ土木
課 02-2092-2042、防犯灯Ⅱ
危機管理課 02-2042

が定めた道路照明に関する技術的基準に基づき、交通量の多い交差点や橋梁部などに設置しています。
防犯灯は、地域の防犯対策として電柱などに設置されている蛍光灯で、津山市では町内会が設置・維持管理しています。市は防犯灯の設置を進めるため、町内からの申請に基づき、毎年度、経費の一部を補助しています。
地域の実情に詳しい各町内会で設置場所が検討され、市へ申請していただいていますので、町内会へ相談してみたいかがでしょうか。
市民の皆さんが安全・安心に暮らせるまちづくりを進めていくうえで、防犯灯などの設置が夜間の交通安全や防犯面において果たす役割は大きいと考えています。今後も補助金の交付などにより道路照明の普及を進めていきます。

わたしのおすすめ



「自分も非行の子を持つ親。『M爺さんの非行学ことはじめ』を読んで闇を抜ける親が一人でも増えてほしい。多くの人におすすめしてください」というお手紙をいただきました。今回は、その本と著者の正木信二郎さんを紹介しします。

非行の子を持つ親も笑顔になれる



DYS
正木 信二郎さん(一方)

この本は、非行に悩む子どもたちと親たちのサポート団体「DYS」の広報紙に連載しているものをまとめたもので、非行の子を持つ親に安心してもらうために書いたものです。
非行の子を持つ親たちは、どこに相談に行っても「このままでは大変なことになるよ」などと脅され、ますます子どもに対し厳しく接するようになります。それでは子どももますます非行に走ってしまいます。しかし「非行」はほとんどの場合、犯罪ではありません。

せん。「非行」は多かれ少なかれほとんどの人が経験するもので、考え次第では大した問題ではないのです。そういう「大丈夫ですよ」という気持ちを非行の子を持つ親たちに伝えたかったのです。
わたしは34年間、家庭裁判所調査官として多くの子どもの非行とかかわり、退職後は「『非行』と向き合う親たちの会」の世話人やボランティアで少年審判付添人を行っています。また、電話やEメールでの相談にも応じていますので、一人で悩まず気軽に悩みを打ち明けてください。

無料相談
(正木信二郎さん)

相談時間 午前8時～10時、
午後8時～11時
※土・日曜日は不在がちです

連絡先 ☎22-7207 (匿名可) Eメール sma815sin263@yahoo.co.jpまたは、
sma815@hotmail.com

正木信二郎 著
本の泉社



ほっと情報

藤本 麻子さん 日本女子アマチュアゴルフ選手権で優勝



写真提供 JGA

藤本麻子さん(国分寺)が、6月23～27日にかけて宮城県で開催された「日本女子アマチュアゴルフ選手権」で優勝しました。

藤本さんは、この大会に津山東中2年の時から6年連続で出場。念願の日本女子アマの頂点に立ちました。翌週行われた「台湾アマチュアゴルフ選手権」でも優勝。今後の活躍が楽しみです。



▲稲葉さん(左)と鈴木さん(右)

9月に秋田で開催されるB級「当地グルメの祭典「B・1グランプリ」」に出場されますね
グランプリまでに、さらにおいしい「ホルモンうどん」を提供できるように、地元の食材を活用したり、味付けを工夫していきます。また、当日は多くの

食数が出せるようにいつも以上に気合を入れて頑張ります。
B・1グランプリには全国から20万人以上の人々がやって来ます。「津山」を全国に知ってもらえるチャンス。ぜひ入賞して「津山」を全国に広めたいですね。
たった5人で始まった「津山ホルモンうどん研究会」の活動は、今や約50人に。お店や行政の間だけでなく、多くの人がかわり、津山の「食文化」を全国に広げるために活動しています。B・1グランプリでの入賞で「津山ホルモンうどん」が津山の味として定着すればいいですね。

未来をひびく 津山人

津山の食文化「ホルモンうどん」を全国に

津山ホルモンうどん研究会

代表 鈴木 康正さん(川崎)
副代表 稲葉 伸次さん(沼)

津山のご当地グルメ「津山ホルモンうどん」を地域資源として掘り起こし、全国に発信している「津山ホルモンうどん研究会」の2人にお話を伺いました。

活動のきっかけは?

平成17年の岡山国体で津山の「おもてなし料理」として紹介し始めました。その後「Bzコピーバンドコンテスト」のために津山に来てくれるバンドや観客たちに、津山の郷土料理を振る舞いたいと思い、活動を本格化させました。
なぜホルモンうどんだったのですか?

昔から津山は和牛の産地でしたから、ホルモンが手に入りやすい環境でした。また、鉄板焼き屋も多くあり、そこでは当たり前のように「ホルモンうどん」が食べられていました。
「ホルモンうどん」は、わた

したちが生まれてからずっと身近にあり「津山」を感じる食なのです。
どんな活動をしていますか?
多くの人に「津山ホルモンうどん」を知ってもらおうとマップを作成したり、各地のイベントに出掛けて行ってPR販売をしています。最近ではテレビで取り上げられることも多くなり、県内外から「ホルモンうどん」を食べに来てくれるようになりました。
9月18日(金)までは「津山ホルモンうどんスタンプラリー」をしていますので、いろんな店で食べ比べをしてもらいたいですね。

